

# 令和6年度の青森県内における豪雪対応について

国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所

## 1. はじめに

令和6年度の冬期は青森県内において記録的な豪雪を観測した。青森市では、昨年12月28日から1月5日までの9日間に139cmという年末年始の期間では過去最大の積雪値を観測し、弘前市でも観測史上最大の160cmを記録した。図1は3月31日時点での青森河川国道事務所で観測している累積降雪量を示している。同日までに616cmとなっており、直近5年間の同日までの平均と比較して約1.4倍の累積降雪量である。この豪雪により、道路交通障害や鉄道の運休により、多くの人々の生活に大きな影響を及ぼし、令和6年12月28日からの大雪と令和7年2月17日からの日本海側を中心とした大雪で2度に亘って青森県内の市町村で災害救助法が適用された。

このような近年稀にみる豪雪の中、令和7年1月7日に青森河川国道事務所は青森県と共同で「青森県豪雪対策に関する連絡調整会議」を開催し、青森県内の市町村への除雪に関する支援や関係者間の情報共有体制の強化などの方針を決定した。

本稿では、令和6年度に青森県内における豪雪の対応として実施した、連絡調整会議やスクラム除雪、道路除排雪支援マッチング、雪捨て場の増設、ホームページ・SNSを活用した広報の数々の対応策についての報告をするものである。

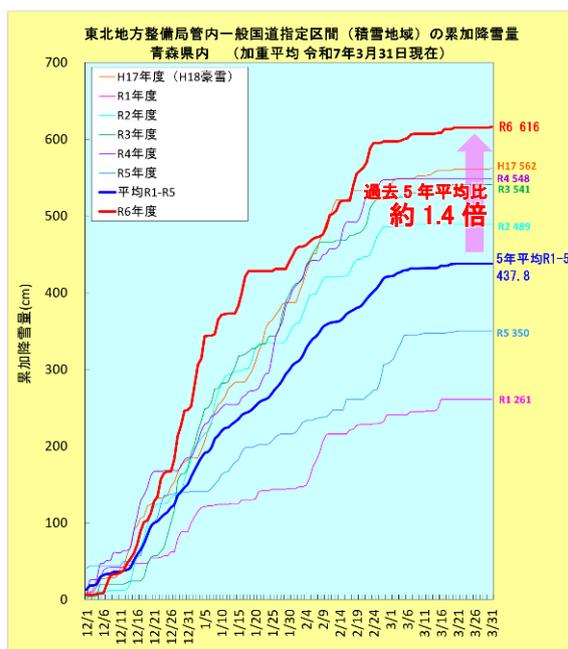


図1 累加降雪量（青森県内）



写真1 青森県内の降雪状況（1）



写真2 青森県内の降雪状況（2）

## 2. 今冬の豪雪対応

### (1) 連絡調整会議

令和6年末から続いた豪雪により、令和7年1月6日までに青森県内の12の市町村と青森県が災害対策本部を設置し、青森河川国道事務所でも1月4日に注意体制から警戒体制へ移行した。1月7日には道路管理者間で豪雪への対応等を調整するため、「令和6年度青森県豪雪対策に関する連絡調整会議」を開催（写真3）し、下記①～③の3点について決定した。

- ① 国（東北地方整備局）の除雪資機材について、市町村への支援を随時強化すること。
- ② 国・県・市町村が連携し、特に市町村の除排雪が迅速に進むよう支援を行うこと。
- ③ 今後の降雪や除雪状況を踏まえ、関係者間での情報共有体制を強化すること。



写真3 連絡調整会議の実施状況

### (2) スクラム除雪

市町村管理の道路の除排雪をサポートするため、道路管理者協働でのスクラム除雪（連携排雪）を全国で初めて行った。

スクラム除雪は連携先である市町村が管理する道路から国が管理する国道に雪を掃き出し、国が保有するロータリー除雪車でダンプトラックに積み込み、所定の雪捨て場まで運搬するものである（図2）。青森市と1月11日、弘前市と1月24日に、初めての試みとして実施したが、双方の除排雪作業の連携が上手く図られたと考えている。

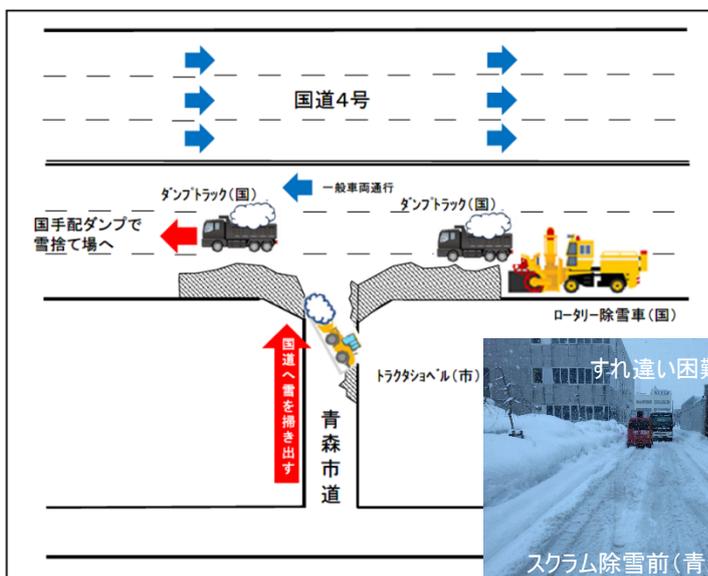


図2 スクラム除雪のイメージ（青森市）



写真4 市道の雪を国道に掃き出し



写真5 ロータリー除雪車でダンプトラックに積み込み（青森市）

### (3) 道路除排雪支援マッチング

青森県内でも地域によって降雪・堆雪状況に差があり、道路除排雪車両の使用状況にばらつきがあったことから、支援の一環として国と青森県が連携して車両マッチングを行った。

具体には津軽地方の市町村において、運搬排雪に必要な車両の手配が困難な状況を踏まえ、青森県は降雪の少ない地域から手配が困難となっている6市町村へ55台のダンプトラックを派遣した。これは県と建設業協会とで締結している「大規模災害時における応急対策業務に関する協定」に基づき実施したものである。また、国でも支援として、小型除雪機29台を15市町村に、ロータリー除雪車1台を1市に貸与した。

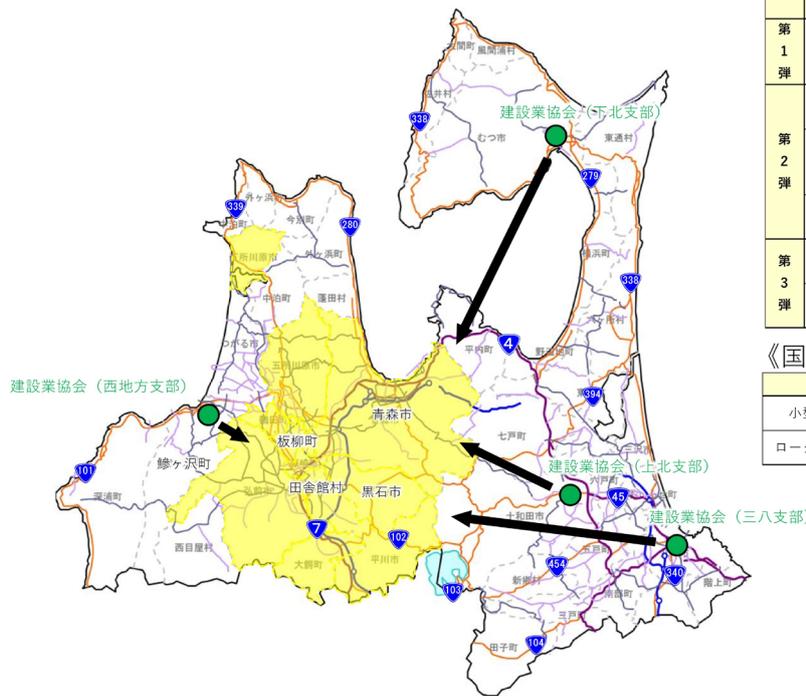


図3 道路除排雪支援マッチング

《市町村マッチング状況》

支援チーム	支援市町村	内容	数量	期間
第1弾	建設業協会(下北支部)	青森市	10t DT 16台	1月14日 ~ 1月15日
		黒石市	4t DT 6台	1月7日 ~ 1月11日
第2弾	建設業協会(上北支部)	青森市	10t DT 3台	1月11日 ~ 1月13日
	建設業協会(西地方支部)	板柳町	4t DT 5台	1月13日 ~ 1月15日
		鯉ヶ沢町	4t DT 3台	1月13日 ~ 1月17日
	建設業協会(三八支部)	田舎館村	2t DT 1台	1月13日 ~ 1月17日
第3弾	建設業協会(上北支部)	田舎館村	4t DT 4台	1月10日 ~ 1月14日
	建設業協会(三八支部)	青森市	10t DT 5台	1月14日 ~ 1月31日
	建設業協会(三八支部)	弘前市	10t DT 12台	1月10日 ~ 1月13日

《国の支援状況》

内容	数量	貸与先
小型除雪機	29台	青森市、弘前市、五所川原市、十和田市、平川市、鯉ヶ沢町、深浦町、大鵬町、中泊町、六戸町、東北町、六ヶ所村、東通村、三戸町、鵜上町
ロータリー除雪車	1台	黒石市

【凡例】

- 直轄国道
- 補助国道
- 都道府県道
- 災害救助法適用地域  
(青森市、弘前市、黒石市、五所川原市、平川市、藤崎町、大鵬町、田舎館村、板柳町、鶴田町)

### (4) 雪捨て場の増設

県内での雪捨て場不足への対応として、使用許可場所の増設を行った。

青森県内の雪捨て場は、河川敷や空き地を雪置場として利用している他、海への投入も行われている。青森河川国道事務所では、岩木川の河川敷の18箇所を雪置場として使用許可を出しており、国の他に県や近隣の市町村、一部一般の方も雪捨て場として利用している。豪雪により雪捨て場不足となったことにより、自治体支援の一環として、青森河川国道事務所では新たに雪置場を3箇所増設した。これにより、10tダンプトラックで約8,000台分(1台あたり14m<sup>3</sup>として試算)の雪の追加ストックが可能となった。



写真6 増設使用を許可した雪置場(板柳町)

## (5) ホームページ・SNS を活用した豪雪対応の広報

今年度の豪雪に関する情報提供のため、ホームページや SNS を活用した広報に取り組んだ。

青森河川国道事務所では、1月9日に「青森県内における除雪の強化・今冬の実績」として、特設ページを開設した。特設ページでは、豪雪対応の実績をはじめ、お役立ち情報として道路情報を確認できるようにし、ポータルサイトのような役割を果たして一般の方が利用しやすいものになるよう心掛けた。青森河川国道事務所ホームページでもトップページには大きめのバナーを配置（図4）し、一目で豪雪対応の情報にたどり着けるような工夫をした。

青森河川国道事務所の公式 X では、国が管理する国道の道路状況を発信する他に、運搬排雪実施状況の動画なども発信（図5）し、多くの人に県内の豪雪対応状況が伝わるように努めた。運搬排雪実施状況の動画は、通常1万件を超えるると多いと判断されるインプレッションが約62万件を記録した他、国が管理する国道の除排雪予定の発信でも5千～1万件に達するなど、非常に多くの人々に伝わったことを確認できた。今後も引き続き、効果的な広報手段の検討を進めていく予定である。



図4 青森河川国道事務所ホームページ（3月中旬時点）



図5 青森河川国道事務所 X

## 3. おわりに

本稿では、令和6年度の青森県内における豪雪対応を報告した。連日の降雪で生活道路の除排雪等、市民生活に大きな影響が出る中、連絡調整会議での決定内容を基に、スクラム除雪や雪捨て場の増設等、国と自治体が密な連携を取りながら、記録的な豪雪に対する対応に当たることができたと思う。

今回実施した対応を今後の異常降雪に対応するための基盤としていくことが重要である。実施内容の効果を確認しながら今後の対応方針の検討を進めると共に、国と県、市町村との更なる連携を図れるような取り組みを青森河川国道事務所でも推進していく所存である。